



「世界津波の日」2018 高校生サミット in 和歌山 ～「稲むらの火」発祥の地で濱口梧陵の精神を共に学ぶ～

2018

10.31(水) ▶ 11.1(木)

〔会場〕
和歌山ビッグホール

和歌山県和歌山市手平2丁目1-1



プログラム

10月31日(水)

12:45 - 16:35

開会式、記念植樹・記念碑除幕式、分科会

11月1日(木)

9:30 - 16:50

分科会、津波防災講演会、総会・閉会式

世界49か国・約400名の高校生が集い、地震津波などの災害から命を守るため、自分たちに何ができるかを議論し、共に学びます。

世界津波の日



11月5日の「世界津波の日」は、2015年12月の国連総会で、日本を含む142か国が共同で提案し、全会一致で採択されました。この日が「世界津波の日」とされたのは、安政元年(1854年)11月5日、濱口梧陵が稲むらに火をつけ村人を高台へ導き、安政南海地震による津波から多くの村人の命を救った「稲むらの火」の故事にちなんでいます。



稲むらの火祭り

〔主催〕和歌山県、和歌山県教育委員会、広川町、広川町教育委員会

〔共催〕国連国際防災戦略事務局(UNISDR)駐日事務所

〔後援〕国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官(防災担当)、外務省、文部科学省、国土交通省、気象庁、経済協力開発機構(OECD)、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)、国立大学法人 和歌山大学、JICA

詳細は専用HPをご覧ください
<https://tsunami2018wakayama.telewaka.tv>

